

令和6年度 学校経営方針

北九州市立八尾中学校
校長 内田 あゆみ

1 校訓

希望・努力・感謝

朝は**希望**に起き 昼は**努力**に生き 夜は**感謝**に眠る

2 学校教育目標

人との繋がりの中で 心を育み、
夢に向かって考動し、挑戦する生徒の育成

<めざす学校像> ～ 「居心地のよい学校」 ～

- 明るく活気にあふれ、生徒・教師が生き生きと安心して生活できる学校
- 生徒と教師がお互いに信頼と誇り（母校愛＝プライド）がもてる学校
- 清潔で美しく、落ち着いた環境で安全に生活できる学校
- 保護者や地域と連携して「開かれた学校づくり」を推進し、信頼される学校

<めざす生徒像> ～ 「一人ひとりが主人公」 ～

- 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒 **【凡事徹底】**
- 自ら考え、自ら学ぶ意欲を持った生徒 **【学ぶ意欲】**
- 集団の中で、他を思いやり、協力して互いを認め合う生徒 **【思いやりの心】**
- チャレンジ精神を持ち、夢に向かって向上の意欲に溢れる生徒 **【挑戦する力】**

<めざす教師像> ～ 「こどもまんなか・すべてはこどものために」 ～

- 教育的な温かさや厳しさにあふれ、知恵を出し、汗を流すことを惜しまない教師
「人を育てる」「誰一人取り残さない」「一人ひとりに寄り添う」 **【情熱・愛情】**
- 教師としての資質向上をめざし、自己研鑽を怠らない教師 **【変革・挑戦】**
「1時間1時間の中に教育のすべてがある」
- 生徒・保護者・地域とのコミュニケーションを図り、信頼される教師 **【安心・信頼】**
- チームとしての和と輪を大切に、生きがい・やりがいを感じられる職員集団 **【チームYACHIGO】**

3 本年度の重点目標

(1) 規律ある生活習慣の確立

- ① 全職員・生徒で「凡事徹底」に取り組む。
 - 時を守る（時間厳守）
 - 場を清める（掃除の励行、環境美化）
 - 礼を正す（あいさつ、言葉遣い、正しい服装、感謝の気持ち）
- ② 時と場合に応じて、生徒が「自ら考動する力」を身に付けるよう取り組む。

(2) 確かな学力の育成（授業規律・授業改善・家庭学習習慣の確立）と体力の向上

- ① 授業規律確立（始業と終業の挨拶、正しい姿勢と聞く態度、学習環境の整備）のため、全職員で取り組む。 →ノーチャイムの取組
- ② 一時間一時間の授業を大切にした「わかる授業」を推進するため、授業改善に努めるとともに、「めあて」を明示し、「まとめ」「振り返り」の時間を確保する。
- ③ 「意欲的に学ぶ」生徒を育てるための手だてを図る。
 - 「目に見える学力」と「目に見えない学力」
 - 授業場面における温かなかわり方
 - ・ほめる（価値づけ・称賛）
 - ・みまもる（期待・信頼・励まし）
 - ・うけとめる（受容・承認・共感）
 - ひまわり教室の活用 →学力の底上げ
 - 放課後教室の活用 →自主学習の奨励
- ④ 授業において、PCやタブレットなどのICT機器の積極的な活用を図るとともに、オンライン授業の充実に努める。
- ⑤ 基礎学力の定着・向上を図るための取組・家庭学習習慣の確立に努める。
- ⑥ 読書の励行・図書館の活用等の読書活動の充実を図る。
- ⑦ 体力の向上を図るため、保健体育科の授業において、授業形態を工夫するとともに、学校全体で運動習慣の定着に取り組む。
- ⑧ 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的に取り組む。
- ⑨ 指導と評価の一体化に努める。

(3) 組織的・機動的な生徒指導体制の確立

- ① 組織的・機動的な生徒指導体制の確立のため、終礼や生徒指導委員会を有効活用し、教師と生徒とのあたたかい人間関係に基づいた生徒指導を推進する。
- ② 生徒指導の3つの原則を徹底する。
 - 危機回避 「先手を打ち、問題行動が生じない環境づくり」
 - 初動が命 「その日にあったことは、その日に対応・処理を原則とし、初期対応を慎重かつ丁寧に」
 - 危機管理の「さしすせそ」
最悪を考え、慎重に、素早く、誠意をもって、組織で対応
「報告・連絡・相談・事後の確認と記録」
- ③ いじめ防止を徹底する。
「いじめ」は「人として絶対に許されない」という認識に立ち、「命」を守り抜くという視点で、学校をあげて即日対応で取り組む。
 - いじめや不登校を生まない教育実践の充実を図る。
 - 生徒の発するサインを見逃さない。
 - 学校の組織を上げて未然防止・早期発見・早期解決に努める。
- ④ 教育相談・生活アンケート等を活用して、生徒の目線に立った生徒理解に努める。
- ⑤ 一人一人に寄り添った、不登校・別室登校生徒への対応を行う。
別室対応を全職員でサポートする。(毎時間、別室担当教員を割り振る。)
※ 「担任をひとりにさせない」学年・学校全体でのフォローアップ
- ⑥ 保護者・SC・SSW・関係機関などとの連携を図る。
- ⑦ 安全教育の推進～避難訓練・防災訓練等を計画的に実施する。
「自分の命は自分で守る」「緊急時最適な考動をとる」
- ⑧ ネットトラブルを予防するため、情報モラルアップを図る。
 - ・他人を傷つけたり迷惑を掛けたりしないPCネット・携帯電話等の使い方やルールについての啓発
 - ・生徒のコンピュータ・リテラシーの育成
- ⑨ 生徒の健全育成のため、薬物乱用、喫煙防止など健康教育を徹底する。

(4) 人間性豊かな生徒（豊かな心と健やかな体）の育成

- ① 八児つながりプロジェクト
 - 学校・学校行事、体験活動等の充実に努める。
 - 生徒会活動（執行部・専門委員会）や実行委員会活動の活性化を図る。

- ② 健康で安全・安心な生活を送るため、自分自身だけでなく、他人の大切さも認め
ることができる人権感覚を育てる。
- ③ 道徳教育の推進
 ○「心を育てる教育」の推進のため、道徳の時間の確保と指導内容の充実を図る。
 ○ローテーション道徳の実施
 ○「新版いのち」「明日への伝言板」などを活用した人権教育の推進に努める。
 ○生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係を調整する能力や技術を身につ
 けさせるため、学級活動等の時間に「北九州子どもつながりプログラム」（北九州
 市対人スキルアッププログラム）を計画的に実施する。（年間6時間以上）
- ④ SDGsの視点から、生徒に自ら考え、活動する取組を推進する。
- ⑤ 学校図書館教育の推進 →「読書」で心を耕し、豊かにする。
 ○朝読書週間（八児タイム）の励行→常に傍らに本がある習慣をつける。
 ○学校図書館職員やブックヘルパーと連携して、学校図書館の環境整備に努める。
 ○図書コーナー（学年・教科）の充実。
 ○教科や委員会活動・調べ学習などで、学校図書館を積極的に活用して、
 本に親しむ機会を増やす。
 ○学校図書館職員・ブックヘルパー・文化委員会との協働。
- ⑥ 「食育」指導を推進する。
 ○学校給食の取組→学校給食週間
 ○畑作活動→芋の苗植え・収穫・収穫祭
- ⑦ 部活動の充実を図る。
 ○礼儀やマナーを重んじるなど、人間力の育成に努めるとともに、適正な指導及び
 運営に努める。
 ○限られた時間の中で、効率のよい部活動を推進する。
 ○全員顧問制とし、状況に応じて可能な部活動運営を推進する。
 ○連携部活動の対応。

（5）特別支援教育の推進・居心地のよい環境作り

一人一人に寄り添う

- ① 全校体制による特別支援学級の指導の充実を図る。
- ② 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒一人一人の教育的
 ニーズに応えるため、校内研修の充実と関係機関との連携を深める。
- ③ 個々の生徒に寄り添い、生活・学習面の向上を目指した適切な指導や支援を行う。
- ④ 「居心地の良い環境作り」を推進する。
 ○多目的室の環境整備と活用。
 ○ステップアップルームの環境整備と活用。担当職員の配置。

(6) 保小中一貫・保護者や地域との連携を基盤とした信頼される学校づくり

- ① 保小中一貫・地域連携教育の効果的な取組を模索し、児童生徒の育ちの連続性を意識した教育活動を実践する。
 - 保育園との交流「芋植え・芋掘り」「保育体験」等 ～特別支援学級
 - 小学校との交流「あいさつ運動」「ごみゼロ運動」「文化発表会招待」等
～学年・生徒会
 - 「教職員合同研修・情報交換会」
 - 地域との交流「地域清掃」「市民センター・児童館・老人会」等
→「中学生ボランティア」活動の推奨 ～公募・ボランティア部
 - 保護者との交流「PTAボランティア」の活用
→学校行事・学年行事・授業等での協力依頼。
- ② 積極的な家庭訪問による家庭との連携を強化する。
(欠席者には、電話連絡、3日休んだら家庭訪問)
- ③ 保護者や地域の理解と信頼を得るために、学校・学年・学級通信等、積極的に情報を発信するとともに、PTAとの連携や地域会議・地域行事へ積極的に参加する。
- ④ 開かれた学校づくりのため、学校評価や地域活動事業推進委員会（今年度から国型コミュニティースクール）等を効果的に活用する。

(7) 組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくり

- ① 機動的な学校運営を行うため、企画委員会や各委員会などを有効に活用する。
- ② 明るく活気あふれた職場づくりを推進し、「チームYACHI GO」として力を結集し、学年間の情報の共有など、日常の報告・連絡・相談を積極的に行う。
- ③ 心と体の健康管理に努め、ワークライフバランスを推進する。
- ④ 教育公務員としての使命と責任を深く自覚し、綱紀粛正に努める。
(個人情報等の管理・セクハラ・体罰・不適切な発言・飲酒運転等の防止 他)
- ⑤ 効率的で正確な事務処理を行うため、校支援システムの活用を推進するとともに、定期的に事務改善会議を行う。
- ⑥ ICTサポーター・情報教育担当教員のもと、タブレットを有効活用する。
- ⑦ OJT（メンタリング・教職員相互の学び合い）取組による人材育成
→スキルや経験の豊かな人（メンター）・スキルや経験の少ない人（メンティー）
→共に学び、授業力・教師力・指導力の向上を図る。
- ⑧ 業務改善による業務の効率化→ 明るく元気に働ける楽しい職場をめざして！